

2022 年度事業活動計画

3年目を迎える新型コロナウイルス感染症拡大による不安定な社会において、遺贈寄付についての注目も高くなってきている。それは同時に、遺贈寄付に関わる団体、組織が多く台頭してきている環境になったともいえる。

その中で、全国レガシーギフト協会は、遺贈寄付推進において中立的、公平な立場にある非営利組織として、日本社会において、遺贈寄付の持つ価値や可能性を一人でも多くの人に理解してもらえるような情報発信を行うとともに、加盟団体、レガシーパートナーといった寄付者と対峙する組織の活動を支援するような情報、コンテンツ、場の提供を行うことに注力をしていく。そして、そのためにも、現有する人的知的資産を大切に、最大限の活用と展開を、以下の3つの活動領域において行っていくものとする。

- 1 普及啓発のための活動
- 2 会員事業の強化
- 3 人材育成

1 普及啓発のための活動

- 「遺贈寄付ウィーク 2022」でのメディアとの連携し、初の広告出稿を
 - 前回の遺贈寄付ウィークでも課題になっていた一般の方や将来の遺贈寄付者へのアプローチを計るために、メディアへの広告出稿(意見広告)を行う。そこから、遺贈寄付ウィークのキャンペーンサイト、特別イベントへのリンクといった連動を図る新しい試みにチャレンジをし、協賛団体と一般、寄付者との接点の拡大を図る。
 - 期間中に開催する「終活セミナー」も、メディアでの告知活動と連動することにより、一般、寄付者の参加増加へと結びつける。
 - シニア層のユーザーが多い携帯電話サービスとの連動企画も検討し、そこからのキャンペーンサイト、イベントへの誘導を図る。
 - 今年度も海外からのスピーカーにビデオ参加いただき、海外の遺贈寄付事情についての情報提供を依頼している。
 - 遺贈寄付ウィークの開催期間は 2022 年9月12日～19日とし、広告掲載は8月中旬を予定する。
- 事例として活用していただけるよう遺贈寄付ストーリーの共有
 - 今まで、遺贈寄付ウィークや遺贈寄付ライブ等で語られてきた遺贈寄付ストーリーを加盟団体やレガシーパートナーが活用できるよう、冊子形式に編集をし、PDF で提供を行う。遺贈寄付のもつ可能性や価値などを広く多くの方にご理解いただききっかけとする。
- 加盟団体の皆様に登場いただき遺贈寄付ライブを継続
 - 今年度も毎月の遺贈寄付ライブは継続実施とする。
 - 年間のスケジュールをたて、今年度は加盟団体に登場していただき、各地域での活動を紹介いただくことにより、地域での「いぞう寄付の窓口」の役割を理解いただき、遺贈寄付の全国的な広がりへと結びつける。
- 『遺贈寄付ハンドブック 改訂第2版』のプロモーションの実施

2 会員事業の強化

- 協会 HP にレガシーパートナーの資料請求受付機能の追加
従来、協会の HP でのアドバンスレガシーパートナー、レガシーパートナーの紹介は団体名とサイトへのリンクのみであったが、資料請求できる仕組みを追加し、寄付者との接点提供を行う。
- 「遺贈寄付の倫理のガイドライン」の援用・整備組織拡大に向けての会員への啓蒙活動を実施す

る。

- 説明会の実施、オンライン研修コンテンツとしての追加等を検討

3 人材育成

- **オンライン研修の新規コンテンツの追加を予定**
2020年12月以来新規コンテンツを追加していないので、倫理についてなどの新しいコンテンツの作成を検討する。かつ、継続して告知を行っていく。
- **学びの場、そしてコミュニティ形成の場となる遺贈寄付サロンの継続実施**
学び、そして参加者同士のネットワーク構築の場ともなっている遺贈寄付サロンはオンラインにて継続して開催実施を行っていく。

4 その他

- **協会のロゴマークの作成**
協会創立当初から使っている「いぞう寄付の窓口」のマークは協会の提供するサービスの一部分のみを表しているものであるため、改めて全国レガシーギフト協会を広く認知していただけるよう、ロゴマークの制作に取り組む。
- **遺贈寄付の展開のロードマップの作成**
5年先を見据えた遺贈寄付の発展のロードマップの作成を、ステークホルダーの皆さんとともに作成を試みる。いままで見えてこなかった、あるいはとらえきれていなかった関係性が洗い出され、遺贈寄付の次なるフェーズに向かっての共通認識が得られることを目指す。
- **事務局運営**
 - 全国コミュニティ財団協会と日本ファンドレイジング協会での共同事務局体制の役割分担を見直し、事業、管理それぞれの業務が効率的に推進されるような体制とする。
 - 業務委託による実施業務の可視化を図り、適宜常任委員会へ報告を行うものとする。